

利尻麒麟獅子舞う会

会長 はた みや むね とし
 畑 宮 宗 聡

○ 設 立 平成16年

○ 会 員 数 12名



『郷土芸術の保存や伝承、創造』 ～100年ぶりの復活を遂げた麒麟獅子がつなぐ利尻島のルーツ～

本舞う会は、大正中期で途絶えた「麒麟獅子舞」を復活させ、神社での奉納舞を続けるとともに創作舞「利尻」のほか郷土芸術の保存や伝承、創造に優れた取組を実践しており、復活を機に島をとりまく歴史と人を改めてつなぎ直し、新たな文化として継承する実践活動は、高く評価されています。

復活から20年を迎える令和5年（2023年）には、利尻麒麟獅子の故郷、鳥取市秋里にある荒木三嶋神社で舞われる予定です。

－ 利尻島仙法志の長浜神社で、約 100 年振りに利尻麒麟獅子が復活 －

利尻町の長浜地区は、明治時代に鳥取から開拓移住した「因幡衆」と呼ばれる人々が多く暮らした地域で、毎年6月20日に長浜神社で奉納舞を行っています。



－ 恒例となっている特別養護老人ホームでの舞 －



利尻島と鳥取の双方にとって、高齢化や人口減などと直面する難しい時代と向き合う活力を育んでいます。特別養護老人ホームでの舞も恒例となっています。

－ 山と海からの恵みをイメージして、風や波を表す舞 －

麒麟獅子舞は、各地域で少しずつ舞い方が違うため、利尻でも独自の振りが舞われています。現在は、60代から20代までの12名が所属しています。

